令和４年度後期　学校評価シート

[資料2]後期

＜学校経営方針の重点＞
１ 確かな学力の向上　２ 心の教育の推進　３ 健やかな体の育成　４ 地域と共に歩む学校づくり

青梅市立吹上小学校

項目	経営目標	具体的な方策（対応する学校経営案プロット）	評価(A,B,C,Dは%) 平均はA=4,B=3,C=2,D=1で算出				分析結果	改善策	担当	学校関係者評価 コメント	学校の見解と今後の方向性
				教職員	保護者	児童					
確かな学力の向上	「高く(知)」…基礎的・基本的な内容を身に付け、視野を広げ、知性を高める。	①生きて働く「知識・技能」を習得するため、各教科の基礎的・基本的知識及び技能を身に付け、思考力、判断力、表現力を育み、主体的に課題を解決する学習態度を養う。また、家庭と協力し合い家庭学習が習慣化できるよう徹底を図っていく。	A	31.3%	40.0%	35.9%	前期と比べ、D・Eと回答した保護者・児童が減った。しかし、前・後期ともにCと回答している保護者・児童が一定数いるため、今後も指導の改善や個別指導が必要であると考えられる。	国語の授業を中心に音読や辞書引きといった活動を通して、正確に読み取る力を伸ばせるようにしていくとともに、算数等で習熟が必要な児童へは、引き続き続き個別指導をしていく。	教務（学力）	学校は基礎基本の学力定着に向けて、学校は主体的に進めていると思うが、宿題を含め、家庭の協力を得られないと、育んでいくことはできない。一層の連携が求められる。 ICT教育においては、より教職員が活用できるよう、研修の機会をより増やしていった方がよい。 挨拶は、社会人になって一番大切。児童のA・B評価が10%あまり低い。コミュニケーションの一歩は挨拶からなので、学校と家庭と地域で育てていきたい。学校訪問時や登下校時のあいさつはとてもよくできている。 特別支援教育が機能しているのではないか。相談しようとする保護者が増えている。教師は保護者に説明して丁寧に対応している。保護者は児童の実態を客観的に理解することが大切。いい数字につながっていると思う。通常級・支援級と垣根なくあそんでいる。これからも友達同士の関係を大切にしていってほしい。 春日神社公園のベンチに上っている子や交差点を自転車で止まらない子を見かけた。大人の目がないときに、自分で判断できる、自律心を育てていってほしい。 晴れていると外遊びが多い。友達と誘い合って通学している。挨拶がとてもよくできている。 図書ボランティアの活動、子供が喜んでいてやりがいがある。通常とあおぞらの保護者も交流できる。案内していると、いろいろ話をしてくれている。会話をしたことがない子も、大人に警戒することなく素直に話せる。声をかけると、嫌がらずに頼ってくれている。この学校のいいところではないか。 いじめや差別は、目に見えない場所で行われることが多い。保護者等からの情報にも耳を傾ける必要がある。 運動会で、高学年のよさこいを見ていた低学年が、食い入るように見たり、真似している姿に感動した。 運動は、ある程度量をこなさないと体力向上にはつながらないのではないか。 人は体験を通して道徳的価値を学ぶ動物だと思う。ごみ拾い活動など、体験活動を通じて、道徳的心情を育成してほしい。 学校の要の6年生がしっかりしている学校は、下学年も年齢に応じて、きちんとできるものだと思う。縦割り班活動の機会を取り入れて欲しい。 学校だよりとHPの更新、これからもよろしくお願いします。 地域の環境を生かした授業をもっと取り入れてほしい。春日神社の祭礼など身近な伝統に触れてみてほしい。 家庭学習は、地道に家庭と連携し合って、こつこつとやるしかない。地道な働きかけが大事だと思う。C評価の保護者・児童が増えた理由は、宿題の量ばかりでなく、ゲームやスマホの使用時間も原因になっているのではないか。	基礎的・基本的な学力が身に付くよう、学校では引き続き、丁寧な指導を行っていく。また、支援員やステップアップクラス指導員とも協力して指導していく。さらに、家庭とより密に連携していく。
			B	62.5%	51.3%	52.6%					
			C	0.0%	7.8%	7.7%					
			D	6.3%	0.9%	1.7%					
			E	0.0%	0.0%	2.1%					
		②言語環境の整備と言語活動の充実を図り、言語に対する関心や理解を深めるとともに、言語能力を育て、その力を基に他教科、他領域の学力向上、児童の思考力・判断力・表現力等を育成していく。	A	25.0%	34.8%	37.2%	前期と同様、保護者、児童は8割以上がA,B評価で、概ね達成できている。教職員のポイントも全体的に上がった。学校全体で「辞書引き」「音読練習」等の活動を通して、向上してきたと考えられる。	研究発表会で他校の先生から本校の取り組みへのご意見をいただき、改善に努める。	研推		校内研究で行ったことを中心に引き続き指導し、改善にも努めていく。また、学校図書館司書、図書ボランティアとの連携を通して、読書活動の充実を図る。
			B	62.5%	53.0%	48.7%					
			C	6.3%	10.4%	6.8%					
			D	6.3%	1.7%	5.6%					
			E	0.0%	0.0%	1.7%					
		③教科等ごとにICTを効果的に活用する学習活動を模索し、個別最適化された学びの実現に取り組む。GIGAスクール構想の効果的な活用をめざし、通信ネットワークを含む校内LAN整備計画を進める。	A	43.8%	24.3%	51.3%	教員・保護者・児童について7・8割がABと評価している。前期に比べ教員の評価が上がっているのは自己評価としてICTを活用する機会が増えてきたものに因る所と考えられる。しかし保護者のC評価が前期より増えていることから、保護者には活用状況が伝わっていないと言える。	ICTをどのような授業のどのような場面で活用しているか具体的な情報公開を行う。また校内にもICT活用の場面を掲示することで教員同士の情報交換になるよう環境整備を進めることでICTの活用を図る。	情報・視聴覚		ICTを日常的に活用できるよう、具体的な活用例を教員同士で共有・情報交換をしていく。そのための研修の機会を設けていく。
			B	37.5%	48.7%	35.0%					
			C	12.5%	13.0%	7.7%					
			D	6.3%	1.7%	2.1%					
			E	0.0%	12.2%	3.8%					
豊かな心の育成	「やさしく(徳)」…やさしくよりよく人と接する心を育て、豊かな精神を身に付ける。	④心の教育を充実させ『一人一人の輝き』と『共に生きる力』を導く。日常の取組として、あいさつと、くん・さんの呼称を徹底する。	A	56.3%	40.0%	31.2%	教職員のA評価が倍増し、保護者のA評価も微増している。児童A評価が10ポイント下がったが、AB評価が8割近く、概ね達成できていると言える。依然として児童の20%程度がCD評価であるため、全体にまで指導が徹底できていないことが考えられる。	全校朝会や学級指導等で日常の指導を継続的に行っていく。児童の言動に気付いた時にはその場で指導することを心掛けていく。	生活指導		あいさつと、くん・さんの呼称については、教職員が率先して範を示していくとともに、継続的に指導を行っていく。 家庭・地域と連携して進めていく。
			B	37.5%	42.6%	43.6%					
			C	6.3%	10.4%	18.8%					
			D	0.0%	5.2%	3.4%					
			E	0.0%	1.7%	3.0%					
		⑤全教育活動における豊かな体験活動と特別の教科　道徳との関連を通して、「生命尊重」「思いやり」「規範意識」などにおける児童の道徳性を育成する。	A	50.0%	41.7%	48.3%	教職員のA評価が40ポイント増え、全体の半分を占めている。教職員が意識して取り組んでいる成果である。保護者、児童共に8割以上がAB評価で、概ね達成できていると考えられる。	道徳の授業を教員同士で互いに参観し合うことを継続し、教職員の授業力を更に向上させる。道徳ファイルの活用を促し、児童に道徳の授業の振り返りをする等を行い、継続的に指導していく。	生活指導		学校関係者評価にもあるが、大人の目がないところでの、自律性や規範意識を育てる必要がある。そのための授業づくりや指導について工夫改善していく。また、学校で行っている体験活動とも関連付けていく。
			B	43.8%	45.2%	39.7%					
			C	0.0%	2.6%	7.7%					
			D	0.0%	0.0%	3.0%					
			E	6.3%	10.4%	1.3%					
		⑥児童相互による縦割り班活動などを通して、「自分の大切さとともに、他の人の大切さを認める」態度を育む。	A	50.0%	41.7%	34.2%	教職員のCD評価が激減し、AB評価が9割近くまで伸びている。保護者や児童のAB評価も伸びていて、概ね達成できている。保護者のE評価が半減したことからも広報活動が進んでいると考えられる。	コロナ感染症対策のため、縦割り活動は実施できなかったので、来年度、活動の在り方について検討していく必要がある。保護者への広報活動を学校便りや学級便り、学校HP等で継続して行っていく。	生活指導		今年度は、状況に応じて活動を実施してきた。次年度は、縦割り活動がより多く実施できるよう計画を進めていく。また、活動の在り方や内容についても今までの物を踏襲するだけではなく、現状を踏まえて検討していく。
			B	37.5%	42.6%	43.6%					
			C	6.3%	5.2%	13.2%					
			D	0.0%	0.0%	2.6%					
			E	6.3%	10.4%	6.4%					
		⑦人権尊重の精神のもと、いじめ・差別や偏見を許さない指導を全校体制で行い、児童の人権感覚を高め、自己肯定感を培う。	A	43.8%	33.9%	52.1%	AB評価が教職員、児童が9割以上、保護者は8割以上と前期よりも伸びていて、人権感覚が高まっていると考えられる。保護者のE評価が半減し、周知できつつあると考えられる。	現状に満足するのではなく、教職員、保護者、児童共に人権感覚を更に高めていく必要があるので、引き続き、日々の授業実践を通して指導を継続していく必要がある。	生活指導		日々の授業や生活場面でにおいて、常に人権意識をもって指導にあたっていく。教師自らが、規範となるよう意識して児童と関わっていく。保護者等からの情報にも耳を傾けていく。
			B	50.0%	51.3%	38.9%					
			C	0.0%	5.2%	5.6%					
			D	0.0%	1.7%	1.3%					
			E	6.3%	7.8%	2.1%					
健やかな体の育成	「たくましく(体)」… 健康・体力の向上を図り、健康で強い意志を育てる。	⑧体育指導や体育的行事などの充実を図る。マラソン週間やなわとび週間を体育科の指導と関連させ、運動の日常化を図るとともに、体力向上・健康増進に努める。	A	37.5%	41.7%	62.0%	教職員、児童のAB評価が約9割以上を維持している。緊急事態宣言後、2年で運動に取り組むことが定着してきたのがこの結果に繋がったと考えられる。	なわとび週間やマラソン週間を活用して、運動をする機会を増やし、運動に親しめるようにする。	体育的活動		コロナ禍で、運動する機会が制限されているが、なわとび週間・マラソン週間や全校外遊びが定着してきている。今後も継続していく。
			B	56.3%	47.8%	26.9%					
			C	0.0%	4.3%	5.6%					
			D	0.0%	0.9%	3.4%					
			E	6.3%	5.2%	2.1%					
		⑨安全指導の徹底を図り、自らの生命は自分で守る態度や能力を培う。	A	43.8%	40.9%	65.0%	教職員・保護者・児童ともにAB評価が9割程度と高く、概ね達成できていると考えられる。特に教職員のA評価が15ポイント増えている。保護者・児童ともにCD評価は5%未満と少ないが、安全指導の更なる徹底が必要である。	安全指導は自分の生命を守るという観点からA、B評価を100%により近づけることが必要である。そのため、日常の安全指導を見直すとともに、継続して一声指導を行うようにしていく。	生活指導		全校で指導を継続していく。また、校外での行動については、家庭や地域とも連携しながら、児童自らが考え判断し、安全に過ごす力を養っていく。
			B	50.0%	51.3%	29.5%					
			C	0.0%	4.3%	2.1%					
			D	0.0%	0.0%	1.7%					
			E	6.3%	3.5%	1.7%					
		⑩新型コロナウイルスに対しての感染防止策として、3つの密を避けることや校内消毒等を行っていく。	A	37.5%	39.1%	63.7%	教職員・保護者・児童ともにAB評価が9割と多く、概ね達成できていると考えられる。保護者、児童のCD評価が10%未満であるが、感染症対策の更なる徹底を図る必要がある。	現在実施している感染症対策を引き続き行っていくとともに、日常の対策を一度見直していく。保護者に対しても学校での取組状況を発信していき、周知していく。	生活指導		児童への手洗い、マスク着用を含めた感染防止の行動について、継続して指導していく。また、校内消毒、換気等の適切な感染症防止対策を講じていく。
			B	62.5%	50.4%	23.5%					
			C	0.0%	5.2%	7.3%					
			D	0.0%	1.7%	2.6%					
			E	0.0%	3.5%	3.0%					
特別支援教育の充実	校内の組織体制を活用して、特別支援教育の理解と推進を図る。	⑪特別支援学級・特別支援教室設置校の特色を活かし、校内の組織体制を活用して、特別支援教育の理解と推進を図る。	A	50.0%	39.1%	40.6%	教員の評価が22ポイント上がり、AB評価で9割を超えている。児童も保護者もAB評価で約8割を超えており、前期よりも達成していると考えられる。保護者のE評価が半減し、保護者への周知が図られつつある。	引き続き通常学級と特別支援学級及び特別支援教室との交流学習を深め、児童の理解をさらに深めるとともに、保護者に学校での取り組みを学校だよりや保護者会などを通して発信して周知していく。	教育相談		あおぞら学級と通常学級との交流を計画的に行い、障害に対する理解教育を推進していく。また、保護者へも交流の様子を発信していく。
			B	43.8%	42.6%	38.5%					
			C	0.0%	7.8%	14.1%					
			D	0.0%	1.7%	2.6%					
			E	6.3%	8.7%	4.3%					
家庭や地域との連携	学校と共通の目標の実現に向かって家庭や地域社会との連携を図る。	⑫HPやメール配信を通して、教育活動の状況や情報を家庭や地域に発信していく。	A	25.0%	38.3%	32.1%	HP更新を担当が呼びかけたことが、教員の自己評価が前期より上がったことにつながっていると考えられる。一方、保護者のC評価が前期より増えていることは、HPの更新が伝わっていない、またHPを見てみたいと思う内容になっていないことが考えられる。	HPが更新されたことを学校だよりなど他の媒体でも伝える。また、児童が学習する姿が具体的に分かるような内容へのブラッシュアップを図る。	情報・視聴覚		さらに、HPと学校だよりの充実を図っていく。また、HPで更新した内容について、学校だよりで更新について発信して周知していく。
			B	56.3%	45.2%	37.6%					
			C	12.5%	13.0%	19.7%					
			D	0.0%	2.6%	7.7%					
			E	6.3%	0.9%	3.0%					
		⑬学校便り、学校公開、道徳授業地区公開講座、地域の教材化や地域の教育力の活用などを通して、相互の連携・交流を密にし、信頼関係を深めていく。	A	31.3%	30.4%	40.6%	保護者、教職員ともにD評価が0%になり、少しずつ地域の人材を活用した授業が実現してきたことによる評価であると考える。しかし、コロナ禍でやりたいゲストティーチャーによる授業が未だ十分でないことが、C評価につながっていると考える。	コロナ禍における、できる範囲での特別授業を検討・実施していく。	運営		学校公開、道徳授業地区公開講座は、昨年よりも公開の規模を拡大して実施できた。また、学年行事は、保護者ボランティアと協力して進めることができた。今後は状況を見ながら、休止している地域の方を招いての授業を検討していく。
			B	37.5%	47.0%	43.6%					
			C	18.8%	10.4%	6.8%					
			D	0.0%	0.0%	2.6%					
			E	12.5%	12.2%	6.4%					
		⑭家庭との連携を図りながら、「学年×10分の学習」の習慣を定着させるとともに、学校より適切な宿題(課題)を出し、家庭学習（宿題＋自主学習）の充実を図っていく。	A	31.3%	28.7%	41.0%	概ね75%以上が肯定的な回答をしている。前期と比べ、Cと回答した保護者・児童が増えている。定着しきれていないところが要因か宿題の量が要因なのかは、数値やコメントからは判断できない。	当該学年に相応しい宿題の量になっているのか学校で再度検討をする。家庭学習の重要性を伝えることで必要性を感じられるようにし、習慣化できるようにしていく。	教務（学力）		学年ごとに相応しい宿題の量になっているのかを検討しながら進めている。今後は、さらに学年ごとにも情報の共有を行っていく。また、保護者に家庭学習の重要性を伝え、家庭との連携を強化していく。
			B	43.8%	48.7%	35.9%					
			C	12.5%	19.1%	12.4%					
			D	6.3%	1.7%	4.3%					
			E	6.3%	1.7%	6.4%					